

道徳科学習指導案

指導者

T 1

T 2

1 日 時 令和6年7月3日（水）6校時

2 学 年 第4学年（14名）

3 主題名 「本当の思いやり」 [B 親切、思いやり]

4 ねらい

困っているおじさんの車いすを押すマナブの心情の変化について考えることを通して、親切は誰かに見せたり、褒められたりするためでなく、困っている人の役に立ちたいと思うからすることに気づき、進んで親切にしようとする心情を育てる。

5 教材名 「ええことするのは、ええもんや！」
（「小学道徳 生きる力4」日本文教出版）

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第3学年及び第4学年の内容項目[B 親切、思いやり]「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」に基づくものである。これは、第1学年及び第2学年の「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」からつながるものである。すなわち、低学年の「あたたかい心で接すること。」から、中学年では「相手のことを思いやること。」に焦点を当てる。

人は、困っている人がいると、自分にできることは何かを考え、それを行為として表そうとする。しかし、親切にすることができるとしても、特に低学年期では心のどこかでは「認められたい」「ほめられたい」という思いが働いてしまうことが多い。中学年期では相手の状況や気持ちを「自分のこととして」想像し、相手のために親切な行為を行うことができるようにと考え、本主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材は、電動車いすが壊れて困っているおじさんを助けるマナブの心の変化から、本当の親切について考えることができる教材である。最初マナブは、友達や道で出会った人にほめられ、自分は立派だと満足する。その後誰にもほめられなくなったとき、「やめておけばよかった。」と後悔し始める。しかし、友達が自分を助けてくれたことで、困っているときに助けられるとうれしいことに気付く。そして、「おじさんが困っているから助ける。」という自分の中の思いやりの心に気付く。マナブの葛藤や変化から、見返りを求める親切ではなく、相手を思いやる親切な心の大切さについて考えることができる教材である。

指導に当たっては、児童が日常の生活を振り返りながら主体的に考え、道徳的価値についての考えを深められるようにしたい。そのために次の4点に留意する。

- ① 導入では、事前アンケートで聞いた「どんな気持ちから親切にするのか」の回答を発表する。親切にするときの自分自身の心情を想起させることで、親切という行為の意味を見つめ直し、本当の思いやりについて考えるという課題意識をもたせる。
- ② 展開前段では、困っている人を見て、自然に声を掛け親切にしようとしているマナブの温かな思いやりの気持ちを共感的にとらえさせる。また、多くの人に励まされているときと、誰もみてくれない坂道を進んでいるときのマナブの気持ちを対比的に考えさせることで、自分のために親切にしているマナブの心情をとらえさせ、中心発問へとつなげていく。
- ③ 中心発問では、マナブの気持ちが変わった理由を問うことで、マナブの親切は「自分の満足のための親切」から「相手を思いやる親切」に変わったことに気付かせ、本当の親切とは何のために行うものなのかを考えさせる。また、友達が助けてくれたことで、困っているときに助けられるとうれしいことにも気付かせる。
- ④ 展開後段では「よりレベルの高い親切」について考えさせることで、親切についての考えの深まりを実感させる。また、自分が今までに、相手のことを思っていた親切について振り返り、自分の行動のよさに気付くことができるようにする。

7 準備物 ・挿絵 ・道徳ノート

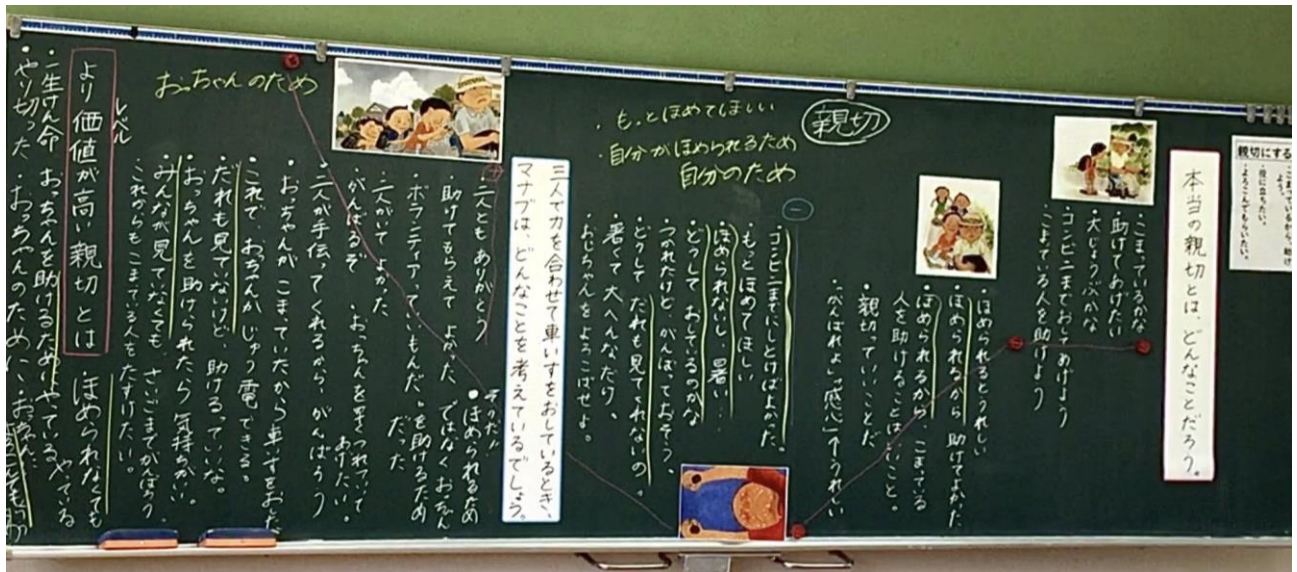
8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	指導形態		○留意点●評価
			T 1	T 2	
導入 (5分)	1 事前アンケートの結果を示して、課題を設定する。	○どんな気持ちから親切にするのでしょうか。 ・かわいそう。 ・困っているから助けたい。 ・役に立ちたい。 ・喜んでほしい。	発問	板書	○親切という行為の意味を見つめ直し、課題につなげる。
		本当の親切とはどんなことでしょうか。			
展開 (35分)	2 教材「ええことするのは、ええもんや！」を読んで考え、話し合う。	○マナブはどんな気持ちでおっちゃんに「コンビニまで車いすをおしてあげようか。」と言ったのでしょうか。 ・困っているみたいだから助けよう。 ・おっちゃんのためにがんばろう。 ・大変そうだけど、コンビニまでなら大丈夫そう。	発問	板書	○困っている人を見て、自然に声を掛け親切にしているマナブの温かな思いやりの気持ちを共感的にとらえさせる。
		○車いすを押しているとき、マナブはどんな気持ちでしょう。 〈通りすがりの人に励まされ	発問	板書	○多くの人に励まされているときと、誰も見てくれ

		ているとき〉 ・頑張っているところをみんなに見てほしい。 ・ボランティアをしてよかった。 ・自分は立派。 ・頑張ろう。 〈誰も見てくれることもなく坂道を進むとき〉 ・どうして誰も見てくれないんだ。 ・ボランティアをしなければよかった。 ・二人にも手伝ってもらえばよかった。 ・もうやめたい。疲れた。 【中心発問】 ○三人で力を合わせて車いすを押している時、マナブはどんなことを考えていたでしょう。 ・友達も手伝ってくれたから助かった。 ・おっちゃんが喜んでくれているから頑張ろう。 ・おっちゃんが喜んでくれて、気持ちがいい。 ・親切は、見てもらうためじゃなくて、おっちゃんのためにするんだ。 ・おっちゃんの役に立ててよかった。 【考えを深める発問】 ○最初のマナブの親切と、最後の親切のレベルは同じですか。それはなぜですか。	発問 机間指導	板書 机間指導	ない坂道を進んでいるときのそれぞれのマナブの気持ちを対比的に考える。 ○マナブが親切にしようと思った「動機」に注目させることで、「動機」の変化が気持ちの変化につながっていることに気づかせる。 ○マナブの気持ちが対比的に考えられるように板書を工夫する。
			発問 板書	板書 机間指導	○親切のレベルがどうなっているか聞き、理由を尋ねる。

	3 自分の生活を振り返る。	・最初はほめられたくてしているけど、最後はほめられなくてもしているから、後の方がレベルが高い。 ・最初は自分のためだけど、最後はおじさんのために気持ちよく親切にしているからレベルが高い。 ○「よりレベルが高い親切」とは、どんなことでしょう。 ・相手のことを思って親切にすること。 ・誰かが見ていなくても、困っている人がいたら助けること。 ・自分のためではなく、相手のためにすること。 ・心からその人の身になってすること。	発問 机間指導	机間指導	○「自分の満足のための親切」から「相手を思いやる親切」に変わったことが分かるように、最初と最後の親切の違いを考えさせる。 ・相手の辛さをわかってあげる ・本当に相手のことを考える。 ・相手のためを思っている。 ●進んで親切にしようとするこの大切さを考えようとしている。
終末 (5分)	4 学習の振り返りをする。	○教師の説話を聞き、学習の振り返りをする。	発問	机間指導	○自分の行動のよさに気づき、相手のことを思って親切を行おうとする意欲を高める。

9 板書



10 成果と課題（成果…○ 課題…●）

- 導入部分を短時間で行うことで、展開部分で児童が考える時間を確保することができた。
- 発問の前に教材文に戻り、状況がイメージしやすくなる言葉を入れたことで、児童は人物の気持ちをよく考えることができた。
- 心情曲線を板書することで、より価値の高い親切について考えることができた。
- 導入部分での事前アンケートの結果が、その後の授業につながっていなかった。事前アンケートの結果を授業の終末で取り上げることで、考えの深まりを実感させればよかった。
- 一人の児童の発言に対して、教師と児童の一对一のやり取りになっていた。全体で考えることのできる切り返しをする必要がある。
- 振り返りの時間に、「今日の学習でわかったこと」「今日の学習で新しい発見」について振り返らせると、書くことが難しい児童が多かった。「今日の学習で一番心に残った言葉」など、児童が本時の学習や自己を振り返りやすい振り返りの視点を提示する必要がある。
- 最後に板書のスペースが足りなくなった。キーワードを絞り、違う意見だけ書くようにすること、学年が上がるにつれて、違う意見だけを発表させるようにしていく必要がある。

11 今後の「改善・充実」に向けて

- ・ねらいの明確化、発問の精選、時間配分の設定を丁寧に行い、切り返し発問で児童が考えを深めることのできる授業づくりをしていく。
- ・児童の思考が深まるような板書をしていく。